

会議録：「第 1 回恵那市産業振興会議」

日時：平成 29 年 7 月 7 日（金曜日） 13：30～

場所：恵那市役所会議棟大会議室

参加者：15 人（別紙参照）欠席者なし

1. 開会

2. 委員委嘱式

小坂市長から委員に委嘱状を交付。

3. 会長・副会長選出

○事務局：「恵那市産業振興会議設置要綱の第 5 条で、会長・副会長を互選により選出するとしてあります。事務局案により、会長を学校法人中部大学経営情報学部経営総合学科教授の森岡孝文様、副会長を恵那商工会議所会頭の山本好作様にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。」

○委員：「異議無し。」

○事務局：「では、会長をお努めいただき、森岡先生からご挨拶をお願いします。」

○会長：「今は、IoT や AI などを活用した第 4 次産業革命を迎えています。このトレンドに、すぐに産業を合わせていくことは無理ですが、既存の産業を維持しながら、新たな産業を生み出していくことが重要な課題となっています。雇用の機会を創出しなければ、豊かな生活は送れません。産業構造の転換期に、産業振興会議を設置し、振興プランを策定するということで、その重要性を鑑みながら議論していただきたい。恵那市には“地の利”があると考えます。交通の便が良いというだけでなく、天然資源や農業、林業、工業など地域資源が豊かで、“経営資源の利”もあると考えます。その資源を活用して、トレンドの中で、いかに新しい仕組み作りをしていくかを考えることが、この会議の目的だと思います。また、ビジョン検討部会の全体の方向性を検討していただくとともに、委員の英知を議論していただく場にしていきたい。皆さんのご協力をいただいて、初期の目的を達成したい。」

○事務局：「続きまして、小坂市長から挨拶申し上げます。」

○市長：「お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。ここにいらっしゃる委員の皆さまは、産業会のリーダーとして活躍していらっしゃる方ばかりです。昨年、私が選挙で当選してから申し上げているのは、『はたらく』『くらす』『たべる』の 3 本柱です。まずは働く場所をつくりましょう。次に食べることを考えましょう。最後に暮らすことを考えましょうということです。恵那市の人口が減っていく中で、恵那市の未来を考えるには、働く場所をつくる、もしくは働く場所についてしっかり考えることが必要だと話してきました。そういった意味で、この会議が始まることは大変感慨深く感じます。先ほど、森岡先生から『英知を集めて考えて行く』とお話いただきました。大変うれしく思います。」

恵那峡は 1924 年に完成しました。あと 6～7 年で 100 年を迎えます。50 年を超えるダムとしては、日本で初めてのダム式発電所です。20 世紀を象徴する大きな投資が恵那市でなされました。21 世紀は、まさに今、本格始動しています。働き方や IT、IoT、AI といった時代です。先日、ボルボが、ガソリンだけの自動車はもう作らないと発表しました。これから 21 世紀の産業がどんどん伸びてくると思います。そのときに恵那市で何ができるか。恵那市から何が発信出来るか。恵那市として、どういう取り組みができるか。大きな目線で考えていただきたいと思います。部会の方では色んなアイデアが出てくると思いますので、最高意思決定会議として、出されたアイデアを議

論し、恵那市の未来の産業振興の核となるアイデアをまとめていただきたいと大きく期待します。」

○事務局：「以降の進行は会長にお願いしたいと思います。」

4. 議事

①恵那市産業振興会議の事業説明

○会長：「議事 4 の①恵那市産業振興会議の事業説明を事務局からお願いします。」

○事務局：資料に従い説明（別紙資料参照）

②恵那市産業振興ビジョン検討部会の進捗状況

○会長：「続いて、議事 4 の②恵那市産業振興ビジョン検討部会の進捗状況について事務局から説明をお願いします。」

○事務局：「これまで、5月30日に第1回産業振興ビジョン検討部会、6月26日に第2回検討部会を開催しました。本格的な議論は2回目から始まりましたが、部会では、まず市職員が集めたデータを基にまとめた各産業の現状と課題について説明し、各委員が認識している現状と課題について意見をいただきました。その内容を検討部会ワークシートにまとめてありますので、主な意見のみ説明いたします。

商業・観光部会では、観光客が増加してはいるものの、滞在時間が短く、宿泊も少ないため、地域に落ちるお金が少ない。観光関連産業である飲食店や飲食料品小売業での雇用が多いにもかかわらず、稼げていないということが分かっている中、委員の方からは、『人口減少でお客さんが減っている』『大型店舗にお客さんを取られている』『お金を落としてもらう仕組みが不十分』などの意見が出されました。

工業部会では、恵那市の基幹産業は製造業であるが、全産業において労働生産性が低く、また地域内での調達も十分に出来ていないことが分かっている中、委員の方からは、『人材不足』『労働生産性が低い』『市内に調達先がない』『高付加価値を生むオリジナル製品の開発がない』などの意見が出されました。

林業部会では、林業経営者や従事者が減少しており、また木材価格も低迷し、産業として発展していないことが分かっている中、委員の方からは、『担い手不足』『木材への需要が少ない』『建築用材以外の製品化が進まない』などの意見が出されました。

○会長：「事務局からの説明について、ご意見がある方はお願いします。」

○委員：「製造業の労働生産性が低いとありましたが、それはデータに基づくものですか。ワークシートのミクロの視点には労働生産性に関する意見が少ないですが。」

○事務局：「経済産業省のデータを分析してまとめたものです。『恵那市の工業に関する現状分析と課題』という資料の5枚目に『4. 製造業の特徴把握_稼ぐ力 特化係数』があります。青色の棒グラフが付加価値額、オレンジ色が従業者数、薄い青色が労働生産性を表すものです。これを見ると、全国平均を表す点線を上回っている産業はほとんどなく、木材・木製品製造業くらいしかないと分かります。

○委員：「背景としては分かりました。ただ、事業者さんの中には実感としてない方もいるのではと思います。」

○事務局：「事業者さんによって差はあると思いますので、今後個別のヒアリングなどを行い、現状を把握しながら施策や事業を考えて行きたいと考えています。」

○委員：「総合計画がありますが、この会議で議論する内容は総合計画の中に位置付けるものですか。」

○事務局：「総合計画に6つの基本目標があり、その中に『産業とまちの発展』という項目があります。その具体的な取り組みをまとめるものと捉えています。」

○会長：「総合計画に記載されている産業振興の取り組みは、大きな枠組みのもので、

具体的な事業をこの会議で考えて行くという理解で良かったでしょうか。」

○事務局：「総合計画に掲載されているのは、産業振興や中小企業振興、企業誘致等の施策になりますので、その具体的な中身を考えていきます。」

○会長：「より具体的な内容をどのように実施していくかを考えていくということによってよろしいでしょうか。」

○事務局：「アクションプランになる部分を作っていくと捉えています。」

○会長：「今日が第 1 回目の会議で、検討部会での問題提起を初めて見た状況なので、理解するのに時間も必要だと思います。意見などがあれば事務局に言っていただいて、それに対して回答するということがいいでしょうか。」

○委員：「林業関係の組織としても、事務方が言っている意見と組合役員が言う意見が違っているといけないので整合性を保つことが必要だと思っています。また、せっかく良い議論をしても、事業を実施しようとするとき、予算がなくて実行できませんということになってはいけいないので、予算に反映できるようお願いします。」

○会長：「この会議には各組織の代表の方が参加していますので、こんな意見でいいのか持ち帰って、確認いただいて情報共有していただきたいと思います。予算に関してはいかがでしょうか。」

○事務局：「産業振興ビジョンを現場の声を生かして策定したという背景を重要視して総合計画に反映させたい。」

○事務局：「委員の皆さまから現状を踏まえた意見をお願いします。」

○委員：「先ほど、労働生産性の話をしましたが、ワークシートのミクロの視点を読んでも、他には出てこない。検討部会で資料説明をして、労働生産性が低いという意見が出たのか、委員の実感として出たのか疑問だった。行政が計画を作るときには、こんな方向に持って行こうという隠れた意図があることがある。恵那商工会議所からは、これからの恵那を背負っていく若い方に委員として検討部会に参加してもらっています。現場で働いている方がどのように感じているかを受け取っていただきたいと思います。」

○委員：「恵南商工会からのたくさんの会員が検討部会に参加している。部会メンバーと話す機会を設けて、会議に持ってきていたいと考えています。」

○委員：「商店街を代表して参加しました。最近では、進学するときに恵那市から離れて、優秀になればなるほど帰って来なくなるパターンが多いと思います。しかし、故郷を大事に思う心を持つ子もいます。商店街のイベントは年に 6 回あり、以前はお客さんとして中学生に参加してもらっていましたが、今は、ボランティアとして小さな子どもやお年寄りの相手をしてもらい、恵那市の良さを体験してもらっています。商店街として、中学生に故郷愛を育んでもらえるような事業を行いたいと考えているので、商業の底上げという意味で、恵那市の商業を背負って立つ小中高生たちのパワーが地元に戻って来るような事業を私たち商店街も考えていきますし、若い人たちの部会で具体化していけるようなアイデアを出してもらい、実施主体として参考にしていきたい。6 月議会でも人口減少が大きな問題となって、去年の恵那市の母子手帳の発行が 200 台と、非常に厳しい状況です。そのようなことを踏まえて、少しでも故郷に残ってもらえるようなビジョン＝まちの魅力にも繋がる活動が出来るような事業展開をしていきたいと考えていますので、部会でのアイデアをまとめてほしい。」

○委員：「工業団地の課題は、今後労働力をどう確保していくかです。各企業で規模を大きくする努力をしているが、なかなか労働力が確保できない。それをどう解決していくかが最も大きな課題です。外国人労働者ではベトナムの方が多くなってきていますが、通勤でマイクロバスを用意しているところもありますが、費用が高い。自転車通勤への切り替えを検討しているが、工業団地近くの道路は自転車通勤にはきつい。地域の住民からも自転車は危ないという意見をいただく。今後、外国人労働者が増えることに対して、道路整備も含めて、恵那市として何が出来るかも検討していただき

たい。」

- 委員：「観光協会を代表して参加しています。先日、観光カリスマの山田桂一郎さんが恵那市で講演され、2005 年からの 10 年間で恵那市の消費額が 64 億円減少したと話しました。2005 年はまだ、人口減少が始まる前。ということは、インターネットで買い物をする人が多くなったということ。仮に、5 万余人の市民が、今の消費を 1%恵那市内での買い物に振り替えると、年間で 6 億 3,000 万円消費が上がるということを話されました。地消地産＝どうやって地域内で回していくか。スイスのツエルマットでは、全て地域内で回す仕組みを町が中心になって考えている。例えば、観光で言えば、恵那のレストランやホテルなどで使うものは、今より 10%多く恵那のものを使うというようなことから始めて行く。宴会の時にビールで乾杯しても、恵那と関わりのない企業へお金が落ちる。恵那には造り酒屋があります。多治見市では乾杯条例を市議会で可決して、多治見市の産業である陶器を使って、地元のお酒で乾杯しようという取り組みを行っています。恵那もそのような取り組みを出来たら、歯車が回っていく。

商工会議の会員数は減ってきています。高齢化で後継ぎがいなかったことが大きな原因ですが、これからは、オーナーと経営者を別にするのを考えたかどうか。後継ぎがいなかったレストランの経営者を市外などから探すために、情報を提供できる仕組みをつくることも大切だと思います。

2 つ提案があります。商店街は広い通りはダメ。東京でも昭和通りは、車が通る場所であって人間が歩く通りではない。並木通りなどは狭い。店の語源は、人に物を見せるようにしたこと由来している。恵那駅前からバスを出し、短時間の駐車が出来るスペースにしまい、人が歩く雰囲気をつくる。鎌倉でも鶴岡八幡宮まで歩くのに、誰 1 人大通りを歩かない。もう 1 つは、駅前駐車場。1 階部分の駐輪場は無料だと思いますが、民に出来ることは民に任せて、もっと有効活用する。例えば、笠置山など素晴らしい場所へどう行ってもらうか。電動機付き自転車を貸し出せば、駐車場は格好のセンターになると思います。センターから笠置山や棚田、恵那峡、岩村などへ行ってもらう。このようなことを考える場所がないので、この会議で考えていってもらったと思います。

観光は、いかに稼げるようにするかですが、滞在時間と消費額は正比例する。2 泊 3 泊してもらえよう、F I T 客に泊まってもらえる町にしていく。それには企業の C S（顧客満足）と同じようにマーケティングをしっかりと、どんなところがダメなのかを知る必要がある。その上で情報発信をしていくというようなことをしていく必要があると思います。」

- 委員：「儲かる農業プロジェクトでは、儲かる農業というだけではなく、耕作放棄地を魅力ある耕作困難地にしていきたいということで、関係者が参加して協議しています。今後、プロジェクトの中で、産業振興会議の目的を達成するよう議論して、その内容を会議に上げて行きたい。特に観光、商業、雇用という面では、皆さんと同じ視点で考えていきたいと思います。」

- 委員：「たくさんある地元の木を、地元で使ってほしいですが、民間で使ってもらうための製材所が市内にない。お寺の建築工事をするときにも市外の事業者が請け負いました。昔は、恵南でも何件も製材所がありましたが、今はない。また、国や県も山が大切だと言いますが、大切だということを理解できているかという疑問がある。岐阜県も「100 年先の山づくり」ということを言っていますが、山の少子高齢化の方が激しく、山はひどい状態。70 年から 80 年経った木が放置されている。木の値段が昔の 10 分の 1 ほどになってしまい木を切ってもらえない状況なので、行政の補助による事業が中心となっている。そのような現状をよく把握して、どのようにするか考えなければいけない。先ほど、市長が、『はたらく』『くらす』『たべる』と言われましたが、働く場所をつくっても、食べる場所があるかという疑問。瑞浪では、

ポーノポークを市内の色々なレストランなどで使って出している。恵那でも地元の物を愛する気持ちを持たなければ、産業だけ振興してもダメ。」

○委員：「森林組合でも、どうやって従業員の安定した生活を保つかを考えて経営している。比較的若い人が働いてくれているが、ハローワークで求人を出すと、市外からの応募はあっても地元で担い手になる人がいない。雇用の場として確保したいが、若い人の確保が難しい。中学や高校で間伐体験をするくらいでは、山の仕事をしていくという気持ちにはならない。木材価格が上がり、もう少し高い給料を払えるようになれば、子どもたちも考えてくれるかもしれない。そうなるよう目指して頑張っていきたい。」

○委員：「金融機関を代表して参加しています。私たちは、すべての業種の方と関わりがあり、お客様の紹介や誘致、情報提供などの支援を行っていくことができる。振興会議に当たっては、金融機関の目線から話をさせていただきたいと思います。」

○委員：「人口減少で、人手不足が課題となっています。高校生の求人が始まっているが、今年は昨年以上に出ているので、地元就職ではかなり厳しい状況。とある高校の話では、全国から 300 社ほどの求人が来ているそうです。その中で、恵那の企業がいかにかに学生や保護者に魅力を PR できるかが重要なので、できる限り協力して、持続できるまちをつくっていききたい。」

○委員：「検討部会のワークシートを見ましたが、かなりの意見が出されており、論点が出来ている。観光でいうと、『周遊が少ない』『滞在が短い』『宿泊が少ない』『お金を落としてもらう仕組みが不十分』、小売りでいうと『域外から買っている』など。これらを具体的に事業として、どう落としていくかですが、ビジョンを策定すると、書いてあるからやらなければいけない、書いてないからやらないとなってしまうがちなので、柔軟に対応できるといい。検討部会で、『こんなことがあったらいい』という声を上手く救い上げられるよう議論したい。」

○委員：「この会議で、新しい産業や取り組みが生まれ、全国に発信していけるようにしたいと思っています。先ほどの、観光カリスマの山田さんの話ですが、地元で生産したものを地元で消費しないと生き残れないと言われましたので、そのような仕組みが出来て、全国に発信できると思います。検討部会では、さまざまな業種の方が参加していますので、連携すれば新たなアイデアが生まれてくると期待しています。」

○委員：「以前から、農業も林業も補助金漬けと言われてきました。事業としてなかなか成立が難しいですが、一方で活用されていない資源や土地がある。国も効率的な活用について新しい考え方を取り入れつつあります。農業については、『儲かる農業』という視点で考えていきたい。林業についても、担い手が就いていくという視点から考えていきたい。先ほど、地消地産の話がありましたが、恵那市の細寒天は生産量日本一ですが、消費はそうではない。栗についても同様。細寒天も栗も消費が多いまちになれば、それらを扱う飲食店なども多いということになり、自然と農業などもそれに合わせて生産するようになると聞きます。また、道の駅の農産物直売所は非常に好評で、成功している例を聞くと、道の駅がリクエストする農産物を農家に作ってもらっているとのこと。スーパーなどで買えるものではなく、高価な農産物が多いそうです。恵那市でも、売れる農産物を生産できるようにしていきたい。」

○委員：「農業部門の資料がありませんが、なぜですか。」

○事務局：「農業部門についても、同様に市で現状と課題分析を行いました。儲かる農業プロジェクト検討委員会での議論がされていないため、今回の会議での資料提供は控えさせていただきましたが、議論が進み次第、情報提供します。」

○会長：「皆さんの意見を聞いて、さまざまな課題があることが分かりました。活用されていない資源を有効利用する仕組みをどうつくっていくかが重要であることの認識を新たにしました。今回の資料を持ち帰っていただき、現状認識の確認と課題の共有

をしていただき、次回会議までの間に、課題の認識について答えていただく機会を設けるよう調整したいと思います。」

7. 閉会

○会長：「では、今回の会議はこれで閉会とします。」